

---

**真・恋姫†無双** - Rise of dragon

クラウン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真・恋姫†無双 - Rise of dragon

### 【Nコード】

N1605Z

### 【作者名】

クラウン

### 【あらすじ】

後漢末期。

数多の諸侯が群雄割拠した時代に、古の民がいた。

人々は、その者達を『龍の民』と言った。

Ep・i 『古の崩壊』 (前書き)

恋姫無双の二次創作です。

さっそくシリアスですが、お楽しみください。

## Ep. 1 『古の崩壊』

時は乱世。

朝廷の力は腐敗し、数多の諸侯が群雄割拠する動乱の時代。

その時代に、古より大陸の平和と秩序を守ってきた民がいた。

彼らは『龍の民』と呼ばれていた。

その身に龍の力を宿いし神聖な者たちである

しかし、彼らもまた滅亡の道へと歩むことになった

その日は、雨だった。

生きる人皆、その身が濡れないように家の中へと入っていった。

しかし、ある村は違った。

その村は、雨だというのにその身を濡らし、地面に伏せ、紅い血を流していた。

皆、息絶えていた。

その村から少し離れた丘。

そこに、剣を一本携え、七、八歳ほどの子供を連れた女性がいた。

女性と子供は何かに逃げるように走っていた。

彼女達の後方からは、身の丈ほどの大きさの鎌を持った外套で身を隠した者が追って来ていた。

女性と子供は走るが、やがて、丘の頂上に来てしまい、逃げ場を失う。

前方には切り立った崖と、その下を流れる川があった。

外套を纏った者は、二人に追い付いた。

そして、口を開いた。

「諦める。大人しくその血を我に捧げる。貴様ら『龍の民』に流れる『龍の血』を。さすれば我は解放される」

その声は、脳の中に直接響いてくるような異様な声音だった。

「誰があなたなんか……!!」

女性は、その顔を憤怒に歪めて”その者”に言い放った。

「よくも村の皆を……よくもあの人を……!!」

「悔しいか？ 恨めしいか？ ならばどうする？ 仇を取るか？」

”その者”は、女性の怒りを嘲笑うかのように言う。

「……残念だけど、私はそこまで馬鹿じゃない」

女性はそう言うと、その体を後ろに隠れていた子供に向ける。そして、優しく言った。

「良い？ あなたを一人にしちゃうけど、きっと龍があなたを守ってくれる。龍だけじゃない、母さんも父さんも、村の皆もあなたを見守ってくれるわ」

柔らかな表情で言う女性。

しかし、子供には全くその言葉が理解できなかった。

「えっ？ 母さん……何言ってる……」

子供は動揺する。

すると、女性は携えていた剣を子供に渡した。

「これを絶対手放しちゃダメよ。何かあると、決して手放しちゃダメ」

女性は言い聞かせるように言った。

子供はうん、うんと大きく頷く。

そして、女性は涙を流した。

「本当は、あなたが大きくなるまで一緒にいたかったけど、無理みたい……」

大量の涙を流しながら、女性は言葉を続けた。

「きつと、大きくなったらお父さんみたいに良い男になるんだろうな……」

”その者”が近づいてくる。

「元気でね。私達がいなくてもしっかりと生きるのよ、臆」

女性は、子供を突き飛ばした。

子供は、足場を失い川に一直線に落ちていく。

「母さん！？ 母さー！ーんっ！！！！！」

子供が最後に見た女性の　　母の顔は、斬られながらも苦痛に顔を歪めず、優しくずっとこちらに微笑んでいた。



Ep.1 『古の崩壊』(後書き)

プロローグでした。

シリアス率100%でしたね…

次回はそれほどシリアスじゃないです。

次回もよろしくお願いします。

EP・2 『漂着』（前書き）

第二話の投稿です。

楽しんで見てください。

EP・2 『漂着』

場所は河東郡。

その地に位置するある村から少し離れた河原に、一人の男がいた。

その男の体は大きく、顔には貫禄のある無精髭と右目に傷があり、その手には釣竿が握られていた。

「昨日の雨で少し心配したが、氾濫は無し。絶好の釣り日和だな」

男は、嬉しそうに顔をにやつかせ座れる場所を見つけるとそこに座って釣りを始めた。

「大量だと良いんだが……」

二刻ほど経っただろうか、男の籠の中にはある何匹もの魚がいた。

「へへへッ！ 大量だぜ！このまま大物も釣っちゃまうか！」

男はご機嫌そうに言う。

すると、竿に何かが引いた。

男は、それを確認すると素早く釣竿を掴み引つ張る。

「重てえ！ へへッ！ こりゃあ大物だな！」

男は渾身の力で引き上げる。

そして竿に引つ掛かったものの正体を確認した瞬間、驚きで固まってしまった。

「……………ガキ!?」

竿にかかったのは、身体中に傷をつけ、しかし、それでも一本の剣をその手から離そうとしない七、八歳ほどの少年だった。

河東郡に位置する村、常平村。

その村の外れにある一軒の家に一人の女性と、一人の七歳ほどの少女がいた。

二人は今、夕食の準備をしていた。

「下準備はこれくらいね。あとはお父さんがお魚を捕って来るのを待ちましようか」

「はい！」

女性がそう言うと、少女は元気良く返事をした。

しばらく待っていると、慌てて走ってくるような音が聞こえてきた。

そして、玄関の扉が勢い良く開き、釣りをしていた男が入ってきた。

「大変だ！！ 椿！！ 大変だ！！」

男は、必死な形相で女性 椿に話しかけた。

「どうしたんですか？ 大変だけじゃ分かりませんよ。お魚はちゃんと釣ってきたんですか？」

と、必死な男に対して冷静に受け答えする椿。

「ああ。聞いて驚け！ 魚なら大量に釣ってきたぜ！……じゃなくて！！ 椿、見る！！」

そう言って椿達に背中を見せる。

彼女達は、背中に背負っている少年に目を丸くした。

「源さん。その子……」

「ああ。魚釣ってたら……」

「誰のうちから誘拐してきたんですか！？」

瞬間、家の空気が凍った。

EP・2 『漂着』（後書き）

少し終わりが中途半端ですけど、話の流れ的に仕方ありませんでした。

次話でしっかりフォローするつもりなので勘弁してください。

## キャラ設定(前書き)

キャラ設定です。

## キャラ設定

姓・鳳

名・仙

字・烈霸

真名・朧

武器・龍刀『白龍』

イメージCV：神谷浩史

古より大陸の平和と秩序を守ってきた『龍の民』の生き残り。  
右腕に龍紋の痣がある。

ある日、村が滅ぼされるが、その日の記憶がない。

愛紗のいる村に流れ着き、愛紗の家で暮らすことになる。

しばらくして、村が賊に襲われた際に通りかかった丁原に弟子入りする。

武力は鳳仙 呂布

知力もそこそこある。

名・源

イメージCV：天田益男

愛紗の父。



川で釣りをしていたら朧が釣れたので拾った。  
豪快で破天荒な人だが、村の人達の信頼が篤い。

現役時代は地方で武官をしており、愛紗・朧（主に愛紗）の武の師匠。

名・椿

イメージCV：福井裕佳梨

愛紗の母。

気立てが良く、家庭的な人物で、母親の鑑とも言われている。

しかし、その反面、勘違いや被害妄想が盛大で、当初、朧を”源が誘拐して連れてきた子”だと思っていた。

## キャラ設定（後書き）

一応こんな感じです。

このあとキャラ設定はちよくちよく入れていきたいと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1605z/>

---

真・恋姫†無双 - Rise of dragon

2011年12月5日23時55分発行